２０１９年ラグビーワールドカップ普及啓発事業
「放課後ラグビープログラムモデル事業」　平成27年度　成果・総括報告

（公財）日本ラグビーフットボール協会
普及競技力向上委員会　中学生部門

（公財）日本ラグビーフットボール協会（JRFU）が掲げる「JRFU 戦略計画」に基づき、中学生のラグビー競技者拡大に向けた環境づくりのため「放課後ラグビープログラム」を実施した。

文部科学省委託事業の 4 か年目として、今年度は合計 9 クラスに事業を拡大し、地域特性を活かした事業展開となった。

各クラスとも JRFU 強化コーチ（日本体育協会コーチ資格）保有者を指導者に配置し、一貫指導プログラムに則った均一・均質なプログラムによる指導を行った。また、昨年同様、大学ラグビー部、トップリーグ、地域協会と連携し、グラウンド提供や選手による指導協力を得た。各教室の特徴を活かした事業が展開されるとともに、中学校の部活動や地域クラブとの連携、差別化がなされ両者の活動を補完する役割が達成された。

＜事業の目的＞

中学生のラグビー競技者は中学校の部活動ないし地域ラグビースクール（スポーツ少年団）での活動となるが、いずれもチーム数の不足により参加意欲のある中学生に充分な競技機会を提供できているとは言えない。

この現状を踏まえ、以下の 5 点を目的とした事業内容とした。

・ラグビースクール経験者が中学校進学後も継続してラグビーに触れられる機会の創出
・活動が週末に限定されるラグビースクールの選手が平日にラグビーに取り組む機会の提供
・他のスポーツに取り組む中学生が新たにラグビーに触れるきっかけづくり
・試合や大会出場を目的としないスポーツ参加を希望する中学生への運動機会提供
・所属ラグビースクール以外の指導者からの技術指導による新たな楽しみの創出

＜事業の成果＞

今年度も、昨年同様トップリーグ連携、大学連携、地域ラグビー協会連携と 3 タイプでのクラス運営を行った。参加生徒及び保護者に対し第 12 回レッスン終了時にアンケートを実施した。アンケート結果では、全クラスにおいて高い満足度となった。また、実施クラスのうち、大分クラスは来年度より自主運営を開始するに至ったことも、本事業のシステムが機能した成果と言えよう。

また、昨年の W 杯での日本代表の活躍もあり、放課後ラグビープログラムも多くのメディアの取材を受け、本プログラムの認知度が上がった。そもあり、放課後ラグビープログラムを開催したいという要望が多数寄せられてたことも大きな成果であり、本プログラムへの期待の大きさがうかがえる。

１、高い満足度を収めた要因について
１）企画が円滑に進むように、コーチ部門が協力団体や指導者の選定を行ったこと。
２）モデル校とアカデミー校を作り、モデル校の指導を踏襲するシステムが機能した。
３）地域協会や近隣のラグビースクールと良好な関係を構築することの重要性を指導者が認識し、他団体との円滑な関係が構築されたこと。

４）開催数日後にクラスレポートをホームページ上で公開し、活動内容を周知したこと。

２、クラスごとの具体的な成果について以下に挙げる。

【東京世田谷】協力団体：リコーブラックラムズ　※モデル校（２年目）

昨年度は、JRFU リソースコーチとの共同開催を行い、今年度はリコーブラックラムズでの自主運営にチャレンジした。W 杯で活躍した海外のトッププレーヤーが指導に加わるなど、参加者にとっては満足の高いクラスとなった。このクラスは中学生の参加が多く見込まれるので、最初から中学生限定のクラスとした・

【東京町田クラス】協力団体：キヤノンイーグルズ　※アカデミー校（１年目）

今度は、初年度ということもあり、メインコーチは JRFU リソースコーチが務め、アシスタントコーチにキャノンイーグルズのスタッフや選手が加わるスタイルで実施した。リソースコーチの安定した指導のもと、キヤノンイーグルズの選手の参加もあり、参加者にとっては満足度の高いクラスとなった。

【埼玉クラス】協力団体：立正大学ラグビー部　※アカデミー校（１年目）

2019 年度のワールドカップ開催都市である埼玉県での開催。グランドまでのアクセスの不便さがあり、参加者の確保に不安はあったが、地域協会と立正大学ラグビー部の協力により、結果的には定員を超える申し込みがあった。メインコーチを日本代表で S&C コーチでもあった立正大学ラグビー部ヘッドコーチの太田氏が務めたこともあり、モデル校のような素晴らしいクラスとなった。来年度はモデル校となってほしいクラスである。

【群馬クラス】協力団体：群馬県ラグビーフットボール協会　※モデル校（２年目）

昨年度の群馬クラスは、パナソニックワイルドナイツの協力で開催したが、今年度は、群馬県ラグビーフットボール協会の協力で開催した。メインコーチを昨年同様、JRFU リソースコーチの三宅氏にお願いしたこともあり、参加者の満足度の一番高いクラスとなった。モデル校として、アカデミー校の手本となる素晴らしクラス運営であった。

【静岡クラス】協力団体：静岡県ラグビーフットボール協会　※アカデミー校（１年目）

2019 年度のワールドカップ開催都市である静岡県での開催。メインコーチは高校教諭である村上氏にお願いしたこともあり、リスク管理等については事務局としては安心してお任せすることができた。クラスは、英語での実施や、ゲーム性を含んだメニュー、タグの使用など、独自性のある内容となった。全体的には満足度は高い結果であった。

【滋賀クラス】協力団体：びわこ学院大学　※モデル校（２年目）

ラグビー競技者の少ない地域（滋賀）での開催。２年連続で参加する生徒が多く、未経験者から経験者へのステップの場としての成果が見られた。ラグビー競技者の少ない地域で 11 人が参加してくれたことは、大きな成果として考えるべきである。参加者は高い満足度を感じているだけに、どうやって参加者を増やすかが大きな課題ではある。

【大阪クラス】協力団体：近鉄ライナーズ　※アカデミー校（１年目）

2019 年度のワールドカップ開催都市である大阪府東大阪市での開催。コーチ部門としては近鉄ライナーズにお願いをした結果、メインコーチを OB の南条氏が務めることとなった。OB 人材の活用というスタイルは本事業の狙いの一つでもあるので、その点において成果であった。また、アシスタントコーチを射手矢氏（女性）が務めたことで、女子のプレーヤーが多く参加したことも成果であった。

【福岡クラス】協力団体：福岡大学　※モデル校（２年目）

2019 年度のワールドカップ開催都市である福岡県での開催。昨年度は九州共立大学で開催し、今度は福岡大学での開催。指導には、コカコーラ・レッドスパークスの西浦氏（元日本代表）も加わるなど、大学とトップリーグが共同して開催する新しいモデルとなった。

【大分クラス】協力団体：日本文理大学　※アカデミー校（１年目）
2019 年度のワールドカップ開催都市である大分県での開催。初めての開催で参加者の確保が心配されたが、地域協会や、日本文理大学の協力もあり、結果的には定員（30 名）を超える参加となった。大学のラグビー部員が常に練習に加わるなど、参加者にとって非常に満足度の高いクラスとなった。

＜今後の課題＞

１、実施内容については、放課後ラグビーのマニュアルに記載してある内容を柱として、各会場のメインコーチの方々に委ねてきた。今年は、会場数が増えて、若干、方向性にバラツキが見えた。事前の研修会を行うなどの対策の必要性を感じる。

２、放課後ラグビーを自主的に開催したいという問い合わせが多く寄せられるようになった。また、JRFU 放課後ラグビーという呼称利用への問い合わせも寄せられている。今後、研修会等を開催するなどの対策を考える必要性がある。

３、JRFU として依頼した協力団体が部分的に業務の一部を第３者に委ねるケースがあり、結果的に関係性が複雑になる問題が起きた。今後は依頼する内容を第３者の協力を受けずに完結させられる団体の選定も必要。また、もし依頼する場合は、事前にコーチ部門に相談することを義務化する必要がある。

４、これまではコーチ部門で協力団体や指導者の選定を行ってきた。それにより、企画として成果を残すことができてきた。今後の展開次第では関係者が増える可能がある。この流れの中で、どのように指導の質を担保し、運営面を円滑に進めていくかも検討していく必要がある。